

映画上映会& トークセッションを開催

映画「ぶぶ漬けどうどす」



©2025 「ぶぶ漬けどうどす」製作委員会

京都の老舗扇子店の長男と結婚し、東京からやってきたフリーライターのマどかは、数百年の歴史を誇る老舗の暮らしぶりをコミックエッセイにしようと、義実家や街の女将さんたちの取材を始める。しかし、「本音と建前」の文化を知らず、女将さんたちを怒らせてしまう。猛省したマどかは、京都の正しき伝道師になるべく努力するが、事態は街中を巻き込んで思わぬ方向に一。

日時：2025年**12月6日**（土）12:45～15:50

場所：深草キャンパス 慧光館101講義室

対象：本学学生・教職員、一般

費用：無料

スケジュール

12:00 開場

12:45 開演・富永監督挨拶

13:00 映画上映

14:50 トークセッション

15:50 閉会

申込方法：QRコードまたは
URLよりお申込みください

(<https://forms.gle/L2grVqk6m54jdsBa7>)



共催：経済学部、REC 後援：京都府、京都老舗の会

問い合わせ先：経済学部部教務課

E-mail : econ-office@ad.ryukoku.ac.jp TEL : 075-645-7894

Ryukoku Cinema

「ぶぶ漬けどうどす」

映画上映会&トークセッションを開催 富永監督×老舗経営者×学生

「龍谷大学経済学部は、京都府および「京都老舗の会」の協力を得て、2012年度からプロジェクト型授業を展開しています。今回は、京都の老舗企業を舞台とした映画『ぶぶ漬けどうどす』の上映会や、監督の富永昌敬氏を交えた地元企業の経営者3名に学生を加えたトークセッションを通じて、老舗の伝統の力や未来への展望について語り合う機会といたします。

トークセッション終了後、学生を対象とした老舗企業との交流会を開催します。

詳細は「長寿ファミリー企業研究センター」で検索してください。

登壇者紹介



富永 昌敬氏（監督）

1975年生まれ愛媛県出身。おもな映画作品は『亀虫』（03）、『パピリオン山椒魚』（06）、『コンナオトナノオンナノコ』（07）、『シャーリーの転落人生』（08）、『パンドラの匣』（09）、『乱暴と待機』（10）、『目を閉じてギラギラ』（11）、『ローリング』（15）、『南瓜とマヨネーズ』（17）、『素敵なダイナマイトスキャンダル』（18）。ドラマ作品にはTX『ひとりキャンプで食って寝る』（19）、FOD『彼女のウラ世界』（21）、FOD『僕の手を売ります』（23）などがある。前作『白鍵と黒鍵の間に』（23）は、フランスのKinotayo映画祭コンペティションにて審査員賞を受賞した他、Japan Cuts（ニューヨーク）、台北金馬映画祭や香港国際映画祭などに正式出品され、海外でも高い注目を集めた。

畑 元章 氏

（株式会社松栄堂 代表取締役社長）

1981年京都市生まれ。立命館大学卒業後、2007年に家業である（株）松栄堂に入社。お香の製造・販売・営業の経験を積み、2018年 経営企画室を立ち上げる。専務取締役を経て、2025年9月 代表取締役に就任。

300年の歴史をもつ香老舗 松栄堂の十三代目として、国内外広く香文化の情報発信を行なっている。ライフワークとしている読書を通じて、社内のコミュニケーションを活性化させている。



山口 進 氏

（株式会社川島織物セルコン 代表取締役会長）

1954年愛知県生まれ。名古屋工業大学卒業後、1978年に伊奈製陶（株）（後のINAX、現LIXIL）に入社。衛生陶器の商品開発・生産、ユニットバスやキッチン企画・マーケティングなどに携わる。2002年に同社 取締役に就任。専務執行役員 グローバルカンパニー LIXIL ASEAN CEOを経て、2014年に（株）川島織物セルコンに入社、同年6月より代表取締役社長、2019年10月より現職。

グローバルに量産のモノづくりを統括していた立場から、急転直下、京都の伝統企業の立て直しを任されることになり、「初めは面食らった」が、今ではかなりの伝統工芸フリーク。

片岡 有紀 氏

（有限会社ビゴーレ・カタオカ 四代目見習い）

1995年京都市生まれ。同志社女子大学国際教養学科を卒業後、機械メーカーに勤務。2021年に家業である有限会社ビゴーレ・カタオカに戻る。

同社は1929年創業の京都の小さな自転車メーカーで、「愉しみのための自転車文化をつくる」という想いのもと、1968年から自社ブランド〈VIGORE〉を展開している。

企画・広報を担当しながら、2023年に同志社大学大学院ビジネス研究科を修了。現在は、フレームビルダー見習いとして自転車づくりの技術・技能の継承を続けるとともに、VIGOREの今後に向けたアイデアを模索し続けている。

